

国語科学習指導案

令和7年9月26日(金)2校時

2年2組36人(2年2組教室)

指導者 教諭 眞 邊 剛

1 単元名 友の作文を創作につなげる

参考教材 「創作文 読みたいくなるしくみを工夫する」(三省堂 現代の国語2)

2 単元設定の理由

本単元は、表現の工夫の効果についての理解を深めるとともに、「書くこと」において、自分が伝えたいことを、言葉や表現にこだわって効果的に表現できるようになることを目指して設定する。教材には、生徒が夏季休業中の課題として取り組んできた作文を活用する。生徒の作文には、自分の生活や体験とじっくりと向き合い、その中で得た生徒自身の思いや考えがそれぞれの言葉でつづられている。また、これまでの国語の学習で育んできた様々な力が生かされて、工夫して表現されたものとなっている。この作文を、学習者のそれまでの学習の成果物として終わらせるのではなく、その後の自他の学習の出発点とすることで、作文を書くことや、他者の表現を自分の表現の工夫に生かしていくことへの意欲を高めることにつながれると考え、本単元を設定した。

参考とした教科書教材「創作文 読みたいくなるしくみを工夫する」は、既習教材を基に物語等を創作する教材となっている。この教材の、基にする作品の魅力や特徴を生かして創作するために作品への理解を深める視点や、自分の発想を盛り込んで表現の工夫を考える視点を生かして単元を構成する。そのうえで、創作の出発点を、同じ学習者の書いた作文とすることで、学習者間の学び合いをより活性化させ、学ぶ対象は身近にあることを実感させたい。

本単元における言語活動は、作文の推敲やリライトではなく、級友の書いた作文を基にした派生的な作品の創作である。作文の書き手がその文章で伝えようとしていることはどのようなことであるかを捉えたうえで、作文を読んで感動した部分や共感した心情、強い印象が残った部分などに焦点を当て、創作の出発点を見つける。そして、創作対象を詩、短歌、俳句、他視点でのショートストーリーから選択したうえで、これまでの様々な学習を生かし、より効果的な表現の仕方を追究しながら、新たな作品を創作する学習を生み出したい。

このような学習を展開することで、それまでの学びとのつながりや、他者の学びとのつながりを生み出すとともに、生徒一人ひとりを深い学びへと導き、国語を学ぶ楽しさや、言葉にこだわって表現することのおもしろさを生徒が実感できる単元としたい。

3 単元の目標

- (1) 類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、作品創作に取り入れることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔知識及び技能(1)エ〕
- (2) 「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなどして、自分の伝えようとするものが伝わる創作となるように工夫している。〔思考力・判断力・表現力等 B(1)ウ〕
- (3) 「書くこと」において、読み手からの助言などを踏まえ、表現の工夫の効果などについて考え、自分の創作した作品のよい点や改善点を見いだしている。〔思考力・判断力・表現力等 B(1)オ〕
- (4) 効果的な表現の仕方について粘り強く思考し、学習の見通しをもって創作活動に取り組もうとしている。〔学びに向かう力、人間性〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な語句の意味や用法、表現技法の効果などを理解し、適切に使うことができる。(1)エ)	① 効果を考えて表現するなどして、よりよい創作となるように工夫している。(B(1)ウ) ② 他者との交流や、他者からの助言を生かして、自分の創作した作品をよりよくしようとしている。(B(1)オ)	効果的な表現の工夫について粘り強く思考し、学習の見通しをもって創作活動に取り組もうとしている。

5 単元の指導計画(全6時間)

時	主たる学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 「学びの道のりシート」を基に学習目的と学習の流れを理解する。 2 友達の作文を読み、自分が創作の出発点にする作文を選択する。 3 選んだ理由と、創作に取り上げたい書き手の思いや考えを記述する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身に付けたい資質・能力や取り組む言語活動を提示し、学習の流れをイメージできるようにする。 ・ あらかじめ創作の基となる作文を3点ほど選定しておく。 ・ 作文を読み味わわせ、創作につなげたいと感じた作品を選ばせる。 ・ その作文を読んで捉え 	

		<p>られたこと、その作文を選んだ理由を記述させ、その後の創作につながるようにする。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 示された作文を読み味わい、その内容や表現の良さを見つけようとしている。(観察)
2 3	<p>4 創作する種類を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句、短歌、詩、他 視点ショートストーリーから、自分が創作する種類を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> モデルを示し、創作のイメージをもたせる。 	
	<p>5 創作 I に取り組む。</p> <p>6 創作した作品を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 創作過程での意見交流を促し、他者との学び合いを生み出す。 創作したものを交流させることで、効果的な表現の仕方について思考させる。 	<p>[思考・判断・表現] ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果を考えて表現するなどして、よりよい創作となるように工夫している。(ワークシート)
4 本 時	<p>7 創作作品を取り上げ、意見を交わす。</p> <p>8 よりよい創作とするための課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文の書き手の思いや考えの捉え方 焦点を当てる部分の明確化 言葉や表現の選び方や並べ方 効果的な工夫の取り入れ方 <p>9 学習を組み立て、創作 II に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な表現ができているものをいくつか取り上げ、自分の創作と比較させることで、その後の創作における課題を見つけさせる。 創作した作品を読み合いアドバイスを送り合う場面を設けることで、その後の学習の流れを自己決定させる。 見つけた課題を基に、残り時間の学習の進め方を「学びの道のりシート」に記入させる。 	<p>[思考・判断・表現] ②</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者との交流や、他者からの助言を生かして自己課題を設定し、自分の創作した作品をよりよくしようとしている。(観察・ワークシート) <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な表現の工夫について粘り強く思考し、学習の見通しをもって創作活動に取り組もうとしている。(観察・学びの道のりシート)

5	10 創作作品を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返り、それぞれの創作に取り組ませる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な語句の意味や用法、表現技法の効果などを理解し、適切に使うことができる。 </div>
6	11 完成した作品を互いに読み、学習の成果について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 完成した作品を取り上げながら、それぞれの創作の特徴や創作のおもしろさに触れる。 様々な表現を取り挙げながら、効果的な表現の仕方について確認する。 	

6 指導に当たって

本単元は、鹿児島県中学校国語教育研究会の以下にある研究課題に関連して授業設計を行った。

【課題 1】 生徒が、言葉で表される話や文章を目的に応じて理解したり表現したりする際に、解決すべき課題を見だし、どのように学ぶのか調整しながら、主体的に考え、異なる立場の者と協働的に対話や議論を行い、新しい解や納得解を生み出す授業デザイン。

【課題 2】 生徒が、言葉への自覚を高め、言葉で表される話や文章を理解したり表現したりし、言葉の理解や表現について改めて吟味する授業デザイン。

鹿児島県中学校国語教育研究会「研究方針 2024」より抜粋

これらの研究課題を踏まえて以下の手立ての工夫を行った。

- (ア) 「学びの道のりシート」や「メタ認知スケール」を用いることで、生徒自身が解決すべき課題を見だし、学習を計画したり、調整したりすることができるようにする。
- (イ) 創作の材料となる作文を選択したり、創作する種類を選択したりする機会を設けることで、生徒が主体性を発揮しながら学習を進められるようにする。
- (ウ) 同じ作文を選んだ人との意見交流や、基となる作文を書いた人との交流を促すことで、個での創作の過程に、協働的な学びを生み出すことができるようにする。
- (エ) モデルを参考にしたり、ロイロノートの共有機能を使用したりすることを通して、他者の表現に触れる機会を生み出すことで、創作に用いる言葉や表現を吟味することができるようにする。

7 本時の指導計画

(1) 目標

自分で創作した作品を、作文の書き手が伝えたいことを表現したよりよい作品とするために、自己課題を設定し、作品の練り上げにつなげる。

(2) 本時の学習過程(4 / 6 時間)

過程	主な学習活動	形態 (時間)	指導上の留意点	評価する内容
導 入	1 前時の内容を振り返り、 本時の学習の見通しをもつ。	全体 (5分)	○ 学びの道のりシートや創作シートを見て、本時の見通しをもてるようにする。	
	2 「自己課題」設定のための視点を確認する。	全体 (15分)	○ 深まりのある創作ができている生徒の作品を取り上げて、作品をよりよくしていくための視点を確認させる。	
展 開	3 「自己課題」を設定する。	個人 (20分)	○ 自己課題設定シートを準備し、自分の創作作品を客観的に捉えさせた上で自己課題を設定させる。	[思考・判断・表現] ・他者との交流や、他者からの助言を生かして自己課題を設定し、自分の創作した作品をよりよくしようとしている。(観察・シート)
	4 「自己課題」を基に、創作活動を進める。		○ ペアで創作作品を読み合いアドバイスを伝える場面を設定する。 ○ 決定した自己課題はロイロノートの提出箱に入れさせ、共有させる。	
	5 本時の学習を整理する。	全体 (5分)	○ 学びの道のりシートに今後の学習の進め方を記入させる。	[主体的に学習に取り組む態度] ・効果的な表現の工夫について粘り強く思考し、学習の見通しをもって創作活動に取り組もうとしている。(観察・シート)
終 末	6 個の振り返りをし、次の時間の学習の見通しをもつ。	個 (5分)	○ 学びの道のりシートに本時の振り返りを記入させる。	

(3) 板書計画

<p>友の作文を創作につなげる</p> <p>単元目標 伝えたいことを効果的に表現できるように なろう。</p> <p>学習課題 よりよい創作とするための自己課題を 設定しよう。</p>	<p>※自己課題を設定する視点</p> <p>① 作文の書き手が伝えたいことを捉えているか いるか 作文 ・どの場面(部分)に焦点を当てた ・書き手の伝えたい思いや考えは どこに書かれている</p> <p>② 言葉や表現がふさわしいか より効果的な表現の仕方はないか ・辞書的な意味 ・類義語や同意語 ・文脈上の意味 ・創作する種類の特徴 ・季節感 ・時間帯 リズムや音数 技法 (比喩、対句、反復、倒置 など) 視点(登場する人物のうちの誰の視点) 描写(情景、会話)</p> <p>③ 他の作文、他の種類の創作</p>
---	---

(4) 想定される本時の姿(生徒が設定する自己課題の想定)

- ① 「作文の書き手が伝えたいことを捉えているか」に着目した自己課題
 - ・ 作文中の・・・場面での～～という気持ちがより伝わる創作にする。
 - ・ 「・・・・」という会話文に着目して、その裏にある登場人物〇〇さんの思いを表す創作にする。
 - ・ 結論部分にある～～という考えを印象的に伝えられるような創作にする。
- ② 「言葉や表現がふさわしいか」「より効果的な表現の仕方はないか」に着目した自己課題
 - ・ 創作した詩の中の「・・・・」という表現を、作文の雰囲気によりふさわしい言葉や表現で表して印象付ける創作にする。
 - ・ 作文の「・・・・」という書き手の考えをもっと鮮明にあらわせる言葉を探して作品を練り上げる。
 - ・ 比喩法を取り入れることで、・・・場面の盛り上がった雰囲気をより印象付ける作品にする。
 - ・ 表現技法を一つ加えることで、書き手の〇〇な気持ちをさらに印象深く伝える創作にする。
 - ・ 作文に登場する人物〇〇さんの視点から見たショートストーリーにして、〇〇さんの気持ちを描き出す。
- ③ 「他の作文、他の種類の創作」に取り組む自己課題
 - ・ 同じ作文を基にして、詩の創作に取り組んで書き手の〇〇な気持ちを印象深く表現する。
 - ・ 作文 B と C を題材にした俳句も創作する。

学びの道のり 単元「友の作文を創作につなげる」
参考教材「創作文 読みたくなるしくみを工夫する」

1 単元学習目標

- (1) 類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、作品創作に取り入れることを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
- (2) 表現の効果を考えて描写するなどして、自分の伝えようとするものが伝わる創作となるように工夫する。
- (3) 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の創作した作品のよい点や改善点を見いだす。
- (4) 効果的な表現の仕方について粘り強く思考し、学習の見通しをもって創作活動に取り組もうとする。

2 目指す姿

- ① 友達の作文を出発点にして、作品を創作する。
- ② モデルとの比較や、他者との交流を通して、自分の課題を見つけ、よりよい創作となるように取り組む。

3 学習計画と学びの記録

月日	段階	時間	学習活動	できたこと・分かったこと・疑問など	振り返り
	I	1	①学習目的と学習の流れを理解する。 ②創作の出発点とする作文を選択し、その理由を書く。 作文〔 A B C D 〕		授業内容を理解できたか。 A ・ B ・ C 考えを書いたり発言したりするなどしながら、授業に主体的に参加したか。 A ・ B ・ C 友達と学び合いができたか。 A ・ B ・ C
		2	③創作の対象を決定する。 〔 詩 俳句 短歌 他視点ショートストーリー 〕 ④創作 I に取り組む。		授業内容を理解できたか。 A ・ B ・ C 考えを書いたり発言したりするなどしながら、授業に主体的に参加したか。 A ・ B ・ C 友達と学び合いができたか。 A ・ B ・ C
		3	⑤創作 I の作品を交流する。		授業内容を理解できたか。 A ・ B ・ C 考えを書いたり発言したりするなどしながら、授業に主体的に参加したか。 A ・ B ・ C 友達と学び合いができたか。 A ・ B ・ C
	II	4	⑥自己課題を設定する。 これからの学習の流れ		授業内容を理解できたか。 A ・ B ・ C 考えを書いたり発言したりするなどしながら、授業に主体的に参加したか。 A ・ B ・ C 友達と学び合いができたか。 A ・ B ・ C
		5			授業内容を理解できたか。 A ・ B ・ C 考えを書いたり発言したりするなどしながら、授業に主体的に参加したか。 A ・ B ・ C 友達と学び合いができたか。 A ・ B ・ C
		6	⑦完成した作品を互いに読み、学習の成果をまとめる。		授業内容を理解できたか。 A ・ B ・ C 考えを書いたり発言したりするなどしながら、授業に主体的に参加したか。 A ・ B ・ C 友達と学び合いができたか。 A ・ B ・ C

4 目標達成チェック

「目指す姿」への達成度を4段階で自己評価してみよう。

- A 十分に達成できた(100~80%) B ある程度達成できた(79~60%)
C あまり達成できなかった(59~30%) D 学習の成果を感じられなかった(29~0%)

①	友達の作文を出発点にして、作品を創作する。	A B C D
②	モデルとの比較や、他者との交流を通して、自分の課題を見つけ、よりよい創作となるように取り組む。	A B C D

5 学びのつながり

- ・今回の単元で身に付けた「国語の力」はどのようなことですか。
- ・今回の学習をこれからの学びや生活の中にどのように生かしたりつなげたりしていきますか。

「友の作文を創作につなげる」メタ認知スケール〔教師用〕

スケール段階	学習者の状態	教師の支援	使用する教材例
初級	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ作文の内容を捉え、自分がその作文を選んだ理由を書くことができる。 ・創作作品の種類を決定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ作文の中で、印象深い部分を見つけさせる。 ・それぞれの種類の特徴を伝え、取り組みやすさを感じた種類の創作を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者のワークシート ・モデル創作プリント ・学びの道のリシート
中級	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の書き手が伝えたいことを捉え、焦点を当てて創作する部分を決定することができる。 ・種類に合った形で創作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作したものを他者に読んでもらい感想をもらう場面を設定する。 ・深まりのある創作ができている生徒の実例を示し、そのよさを具体的に共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ワークシート ・モデル創作プリント ・他者の創作ワークシート(ロイロ共有) ・学びの道のリシート
上級	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の書き手が伝えたいことを深く捉え、表現等の工夫につなげることができる。 ・他者の作品と比較したり、他者からのアドバイスを受けたりして、よりよくするための自己課題を設定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの中に自己課題を設定させ、書きこませる。 ・自己課題を他者と交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題設定シート ・創作ワークシート ・モデル創作プリント ・他者の創作ワークシート(ロイロ共有) ・学びの道のリシート
エキスパート	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した自己課題を基に、創作した作品を具体的にによりよくしたり、新たな創作に取り組んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作作品の変容部分を明示させ、その変容の意図を言葉でまとめさせる。 ・新たな創作における工夫のポイントを言葉でまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題設定シート ・創作ワークシート ・モデル創作プリント ・他者の創作ワークシート(ロイロ共有) ・学びの道のリシート

「友の作文を創作につなげる」学習スケール

学習段階	学習状況
初級	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ作文の内容を捉え、自分がその作文を選んだ理由を書くことができる。 ・創作作品の種類を決定することができる。
中級	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の書き手が伝えたいことを捉え、焦点を当てて創作する部分を決定することができる。 ・種類に合った形で創作することができる。
上級	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の書き手が伝えたいことを深く捉え、表現等の工夫につなげることができる。 ・他者の作品と比較したり、他者からのアドバイスを受けたりして、よりよくするための自己課題を設定することができる。
エキスパート	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した自己課題を基に、創作した作品を具体的にによりよくしたり、新たな創作に取り組んだりすることができる。

資料Ⅰ モデル例(モデル作文ををもとに)

〔俳句〕 メズのよう つなげる自分 夏に立つ

〔短歌〕

香広がる ひとつにまとまる ハーモニー メズの私も みなを引き立て

〔詩〕

耳になじむ音

心を澄ます音

その音のまとまりは

人の思いをうるわす

一つと一つがつながる

一つと一つをつなげる

わたしも音

その中の音

メズとして生きる

メズとして生かす

わたしも人の心をうるわす

〔ショートストーリー〕

またケンカした。

わたしは吹奏楽部に仲良しの友達がいる。仲良し五人組だ。趣味や、大好きなテレビ番組のこと、なんでも話ができる。五人でいるととにかく楽しい。

でも、けんかをしてしまうこともある。部活動のことになるとみんな真剣になる。いい合奏をつくるために意見がぶつかることもある。真剣に向き合っているからこそそのケンカだ。

そのケンカは「音」に表れてしまう。お互いの関係がうまくいつていないときの合奏は、やっぱり美しくはならない。音と音に距離ができてしまう。そんな合奏は楽しくない。

そんなとき、いつも仲違いしてしまいそうな私たちをつなぎとめてくれる存在がいる。メズパートの綺羅里だ。

離れていきそうなわたしたちのあいだに、すつと入って、わたしたちを優しくつないでくれる。綺羅里は無理に仲直りさせようとはしない。何気なく、自然に。だからいつも助かる。いつも安心して、また五人に戻ることができる。綺羅里は私たちを、私たちの音を、やさしくつないでくれるメズのような人。

五人のまとまりは、吹奏楽部みんなのまとまりになる。一つになった私たちのハーモニーは今日も優しくみんなの心に届くはずだ。

友の作文を創作につなげる

(組) (番 名前)

単元目標

伝えたいことを効果的に表現できるようにしよう。

学習課題

クラスメートの作文を読んで捉えたことを基に創作をしよう。

選んだ作文

作文から捉えたこと(読み取れた気持ち、感じたこと)
作文を選んだ理由

□

□

創作構想

- ・ 詩
- ・ 短歌
- ・ 俳句
- ・ ショートストーリー(他視点の物語)

・ どの部分(場面)に焦点を当てるか

・ どのようなことを表したいか

・ どのような構成にするか

・ どのような工夫をしたいか

「創作シート」

(組) (番 名前)

・ 創作過程が分かるように、できるだけ消しゴムでは消さずに変容や修正が残るように書いていきましょう。

□

・ よりよい創作とするためのシートです。見つけた自己課題を書き込み、創作をさらに進めていきましょう。

自分のここまでの創作をチェックしよう

チェック1 書き手が伝えたいことを捉えられているか
(ばっちり 確認必要)

チェック2 自分を取り上げたい、作文中の思いや考えは明確に伝えられているか。
(ばっちり 確認必要)

チェック3 言葉や表現がふさわしいか／より効果的な表現の仕方はないか
※ 「ばっちり」なものは○で囲おう

- ・ 言葉の意味(辞書的な意味／文脈上の意味)
- ・ 類義語や同意語の検討
- ・ 創作ジャンルの特徴を生かした表現
- ・ 「季節感・リズムや音数・会話文・心内語 他」
- ・ 効果的な技法
- ・ 「比喩 対句 反復 倒置 体言止め 他 (法)」
- ・ 視点の工夫
- ・ 描写の工夫
- ・ 「情景 会話 他 ()」

チェック4 (学習ペアから指摘された不足している点や改善できそうな点)



自己課題

(自分の創作作品をどのような課題をもってより良くしていくか。)

設定した自己課題をふまえて創作を進めましょう。
(このシートを使わずに「創作シートI」に書き加えたり修正したりしてもOK！)

友の作文を創作につなげる(まとめ)

(組) (番 名前)

(

単元目標

伝えたいことを効果的に表現できるようにしよう。

学習課題

クラスメートの創作作品を読み、効果的な表現の仕方について考えよう。

選んだ作品1

さん

選んだ作品2

さん

選んだ作品3

さん

自分の性格の良いところ

何で私はこんなにだめな性格なのだろう。そう考えってしまうことが最近よくある。自分のバの中で考え事をしているときも、これは私のせいじゃない。あの人のせいなんだ。と思っ、ているときがふとある。弟や友達とけんかをしてしま、たときも、それはあなたにせいじゃん！とと、さに言っ、てしま、う。私はそんな自分に嫌気がさし、自分で自分を責めてしま、う日もよくあ、た。すぐ人のせいにしてしま、うところが、私の性格の悪いところなのだ。自分と、性格の良い友達を比べてしま、うと、もう自分には良いところが何も無いのではないか。みんなにはどんな風にも思われ、ているのだろうか。そんな考えが頭の裏に悶々と渦巻く。だが、そんな自分を少しでも変えたいと思、うことができたのは、弟とあるさ、さいなけんか、がきっかけだ、た。

その日は、部活で疲れていた。最近の夏休

みの練習では、とても暑い中や、っていたり、三時間というたくさんの時間の中でするの、で少しきついと思、つ、ま、し、ま、う、こ、と、も、あ、る、。そ、ん、な、と、き、だ、つ、た、。家、に、帰、る、と、弟、が、大、き、な、音、量、で、テ、レ、ビ、を、み、て、い、た、。ア、ニ、メ、の、中、の、キ、ャ、ラ、ウ、ク、が、そ、の、と、き、だ、け、は、何、だ、か、と、も、煩、し、い、よ、う、に、感、じ、た、。そ、レ、で、私、は、う、る、さ、い、と、思、っ、て、し、ま、つ、た、。頭、の、中、は、熱、が、バ、ン、リ、リ、と、う、る、た、。そ、う、し、て、私、は、言、っ、て、し、ま、つ、た、。『テ、レ、ビ、の、音、量、う、る、さ、い、で、し、ま、い、し、よ、!!』

言、つ、た、瞬、間、あ、ま、た、人、の、せ、い、に、し、て、し、ま、つ、た、。ま、た、人、に、当、た、つ、て、し、ま、つ、た、。そ、う、思、つ、た、が、言、い、お、し、た、ら、歯、止、め、が、さ、か、ず、に、い、だ、い、た、い、あ、ん、た、は、ず、つ、と、家、に、い、て、何、で、片、付、け、し、て、な、い、の、! 効、強、も、だ、よ、!』

と、も、と、声、を、荒、ら、げ、て、言、っ、て、し、ま、つ、た、。そ、う、し、た、ら、弟、は、『も、り、知、ら、な、い、か、ら、。俺、い、つ、も、の、音、量、下、テ、レ、ビ、見、て、る、し、よ、』と、言、い、捨、て、て、二、階、に、上、が、つ、て、い、っ、て、し、ま、つ、た、。

った。テレビの音量のメーターを見ると、
いつもと同じの二十二。時間がびたりと止ま
たように、私は考え、自分の言っていること
は言いかかりだったという答えにたどりつい
た。自分で解凍した冷凍ご飯と、明太子を食
べながら考えた。弟はただ、いつものように
自分の好きなアニメを、いつもと同じの音量
で見ているだけだ。悪かったのは私、イライ
ラしてハッ当たりしてしまっただけというこ
とに気が付いた。自分の感情に振り回され、
相手を傷つけてしまったことにとっても後悔し
て、反省した。しばらくして、自分の心の
がさつきよりも、ともしもやもやしさ
た。心の中は霧がかか、嫌な気持ちに
なってきた。そうして、少し迷ってしまっ
た。ど、やっぱり自分は悪いことをしてしま
した。このままではいけないという思いが
出てきた。そうして私は、そろそろと二階
に上がり、
「さ、きはぐめん。音量が大きくなか、た

のに、お風呂が疲れてイライラしてたの、本当
にぐめん。
と真剣に謝った。そうすると弟は、短くため
息をついたまま、
「まあいいけど。いつもそうだけど、人のせ
いにしたり、当たったりするのは良くないよ
と思う。
と言ってくれた。私はほっとした。そうして
弟の優しさに感謝した。そして、人のせいにな
る自分を再認識することになったのだ。自
分で自分をコントロールし、感情だけに左右
されないようにしようと思えた。
この経験を通して、私は一人のせいによる
ことは、誰も幸せにならないことだ。という
ことをとても強く感じた。感情に流されて、
相手に当たったり、相手を責めたりするのは
はたなく、まずは自分の心と向き合うことが大
切なのだ。ということを知った。この出来事が
ある前は、自分の性格で自己嫌悪におちいる
だけだ、たのだが、これで自分を見つめ直し
考えることができた。これからは、イライラ
したことがあっても一度頭を冷やして、適切
な発言ができるようにしたいと思う。

学校の帰り道

私は、学校で毎日授業を受けたり部活動に取り組んだりしてとてもつかれます。部活動では、バレーボールの練習を一生懸命していてもとても暑くて汗をかきます。でもか、同じ部活動の友達とも協力しながら取り組んでいきます。

そして、部活動が終わり帰る準備をして友達と一緒に帰ります。私は学校帰りにいつも通る道を歩いていると、今日も一日がんばったという達成感を感じます。私はこの達成感を感じられる時間が好きです。

いつも、友達と昨日のテレビの話や今日一日あった出来事など毎日色々な話をしています。その中で、あまり興味がなかったことも友達の影響を受け興味かわいてきたり、その話題について自分が考えていることや思っていることなどを話し、共感しあったり他の人の違う色々な考えなども聞けてすごく楽し

いです。

木や空にも、耳をかたむけてみると、フクニンチン。ミンミン。など虫や鳥もみんなと楽しく話しているかのように鳴いている音が聞こえます。

私は、友達と帰る時に四季の移り変わりを感ずることがあります。

春は、公園に桜がたくさん咲いていて木がピンクで華やかです。また、新一年生がピカピカのランドセルを背負ってゆくり歩いて

いるのを見ると春らしさを感じます。

夏は、色々な虫の鳴き声か鳴り響いてとてもにぎやかです。また、学校から帰っている途中に暑くて、喉がかわいてしまいます。な

ので、早く家に帰りつきたいなと思います。急に雨が降ったり、天候が変わったりする

のも夏の特徴です。

秋は、紅葉で色々な色が楽しめます。もみじのように赤くなる木もあれば、銀杏のよう

に黄色になる木もあります。

冬は、日がおちるのが早くて暗くなるのが早いです。また、木も幹や枝のみになり少しさびしく感じます。

ですが、冬の寒さも友達と話しながら帰るとほっこりして、寒さを忘れることかあります。

さらに、同じ道を歩いてるのに一人で歩いてる時よりも、友達と楽しい話やおもしろい話をしながら、帰る時の方が歩いてる距離は同じなのに、かかわらず距離が短く感じ

いることや、時間があつという間に過ぎていてこんなにも、時間の感じかたが違うんだと感じました。

また、スマートフォンで友達とやり取りをするに比べて直接やり取りをすることで、その話題について詳しく話をしたり、今素直に思ったことや考えたことをみんなと話すことができたりするという良さがあります。

そのため、会話かときれないほど、夢中になつて話しています。友達と話す時のときや

かな雰囲気やその話しについて楽しく喋っている時間か、何も考えず気付いたら何回も、自然と笑顔になっていきます。

自然と笑顔になつていることにより、一日の学校の疲れを忘れさせてくれるように感じられます。

私は、学校の帰り道のひとを改めて考えてみて、人と話すことの楽しさについてもう一度考えることかできました。人と話すこのの楽しさや大切さを忘れずに、これから今の日常を大事にしていきます。

「自分の趣味を続けるために」

私の趣味は写真を撮ることです。写真を撮ると、思い出がたくさん残ります。好きな場所の様子や、青空、友だちの笑顔などを写真におさめると、同じ時間を何度も思い出すことができて、とても幸せな気持ちになります。初めてきれいに撮れたときのうれしさは、今でも忘れられません。写真の魅力は、一瞬を永遠に残せることだと思います。そのときに

見た景色や感じた気持ちを形に残せるので、後から見返したときに「こんなことがあった」と思い出すことができます。家族や友だちを見せると「いいね」と言ってもらえることもあり、それもまた励みになっています。季節ごとに春は桜、夏は海、お祭り、秋は紅葉、冬はクリスマス、雪など、写真を撮るには最高の題材です。しかし、私は時々考えます。もし環境が汚れてしまったり、今のよう美しい景色を撮

ることができなくなってしまうのではないかと。例えば川や海がゴミでいっぱいだったら、せっかく綺麗なところも台無しになってしまいます。青空がいつも灰色の煙に覆われていたら、あたりが暗い雰囲気になるし、気分も下がってしまいます。自然が失われることは、写真の題材がなくなるだけではなく、自分の楽しみも奪ってしまうことだと感じます。また、戦争が起こったらどうなるでしょうか。戦争の話をしたり、^実実際の映像をニュースで

見ることにありますが、そこには笑顔も平和な日常もありません。建物が壊され、あたりが燃え、空は真暗、みんなが苦しんでいます。趣味として写真を撮る楽しむこともできません。たくさん撮りたいはずの家族や友だちの笑顔も戦争によって失われてしまいかもしれません。そう考えると、私が今、自由に写真を撮れていることが平和で安全な環境に支えられていたのだと感じます。では、私は自分の趣味を続けるために、何

が、できるのでしょうか。大きなことができた
くても、自分ができるところから取り組むこと
が大切だと思えます。例えば、ゴミ拾いをし
てみたり、ゴミの分別はきちんとすること。
電気や水が無駄にしないように心がけること。
この、普段の生活でもできることがあるから、
それをやることでこうした小さな積み重ね
が、環境を守ることにつながるのではないか
と考えています。さらに、平和にするために
学校で戦争について学んだり、原爆資料館に
行って話を聞いたり見たりすると、今まで自
分が暮らしてきたこの平和がどれだけありが
たいかわかります。戦争を経験したことは自
分はありませんが、経験をした人たちが二
度と繰り返してはいけません」と語り継いで
ることを私も後に受けついでいきたいです。そ
して、人と平和の大切さについて話し合うこ
とも、私にできることのひとつだと思います。
小さな心がけでも、平和を考える人が増えれ
ば、戦争のない未来につながるはずです。

写真を撮ることには、私にとって趣味以上で
す。自分の心を豊かにし、人と人をつなげる
力があると思います。だからこそ、この趣味
を続けていきたいし、そのために環境を守り
平和な日常を築く努力が必要だと思っています。
みんなの笑顔を守るために、自分にできるこ
とを続けていきたいです。
これから、いろいろな景色や家族、友だち
の姿を撮ってみたいと思います。そしてそ
のたびに「この瞬間を守りたい」と思いつなが
ら、環境や平和について考えていきたいです。
趣味を楽しむことと、世界を守ることはつな
がっているのとあらためて感じました。写真
を撮ること以外でも趣味は平和だからこそ続
けられることだと思っています。私はこれか
らもう工夫しながら、この大切な趣味を続け
ていきたいです。